

2027 年度 募集要項

進学のための日本語2年課程
進学のための日本語1年課程



学校法人 国際ことば学院

国際ことば学院日本語学校

1. 国際ことば学院日本語学校 教育理念

「世界中の多様な人間同士が学びあい、支えあう場を創造する」

「ことば」には人と人をつなげる力があります。その「ことば」の力を日本語学習を通して身につけ、世界の多様な人々とどうすればお互いに幸福に暮らせるようになるのか、いっしょに考えましょう。

本校では理念に基づき、次のような人を求めています。

- ・好奇心を持ち、新たな人との出会い、ともに学ぶことに喜びを感じられる人。

日本語の学習について

・日本での暮らしに必要な日本語を身につけたいなら、努力が必要です。それも、ただ何回も書けばいいとか、宿題をすればいいというものではありません。学習方法が大事です。

・教室の中で、意味のあることばの使い方の練習をたっぷりとします。それは、教室の外、つまり実際の日本語を使う場面の準備です。そして休憩時間の学校のろうかで友だちと話するときも、事務室へわからないことを質問しに行くときにはことばを使ってやりとりをします。

・買い物をするときも、洗濯機を使うときも、ことばの理解がなければ目標は達成できません。

留学中、旅行に出かけたり、友達とスポーツをしたり、美容院に行ってヘアスタイルを変えてみたり、日本の生活を本当に楽しむには日本語を身につけなければなりません。

・そしてみなさんの目標である大学や専門学校で学ぶためには、日本語が使えなければ講義や指示を聞いて理解できないのはもちろんです。

・学習は、決して一人きりで行うものではありません。仲間と助け合い、意見を交換し合ったり、互いに協力しながら、よりよいものを「発見」していくことが、時間がかかるかもしれませんが本当に自分のためになるのです。

・先生たちは、みなさんのできることを増やすため、授業を研究し、みなさんにアドバイスをし、そしてみなさんの活動をやさしく支えて見守っています。

・こんな学習方法を理解し、その効果を信じること。そして、かならず「好奇心」をもって入学すること。これが入学のための約束です。

- ・詳しくは別添のカリキュラム表をご覧ください。

2. 募集課程・募集定員

学科名：日本語学科

課程名	修業 年限	入学 時期	募集定員	学習時間	目標とする 到達レベル
進学のための 日本語 2 年課程	2 年	4 月	90 名	1536 時間	CEFR B2
進学のための 日本語 1 年課程	1 年	4 月	15 名	768 時間	CEFR B2

授業時間 月曜～金曜/週 20 時間

午前クラス：8:30～11:50 ・午後クラス：13:00～16:20

午前・午後のクラスはクラス分けテストの結果をもとに決定します。

3. 入学資格

- ・12 年以上の学校教育かそれに準ずる課程を修了している者、またはそれと同等の学力があると校長が認める者
- ・入学時に年齢が18 歳に達している者
- ・入学選考試験に合格した者

【各課程の入学資格】

(1) 進学のための日本語 2 年課程

- ・日本語能力：CEFR A1～A2 相当（日本語能力試験 N5 など）以上の日本語能力を有する者。
- ・その他：日本語、英語、中国語またはミャンマー語により基本的なコミュニケーションが可能な者。

(2) 進学のための日本語 1 年課程

- ・日本語能力：原則として CEFR B1 相当（日本語能力試験 N3 など）以上の日本語能力を有する者。
- ・その他：日本語、英語、中国語またはミャンマー語により基本的なコミュニケーションが可能な者。

4. 出願書類

提出書類	注意事項
1. 入学願書	本校所定様式・志望理由書は、日本語学習目的と卒業後の予定を詳しくかいてください。
2. 最終学歴の卒業証明書	原本を提出してください
3. 最終学歴の成績証明書	原本を提出・大学卒業者は高等学校の成績証明書も提出してください
4. 日本語能力の証明書	JLPT・J-TEST・NAT-TEST・TOP-J
5. 日本語学習証明、在学証明書	コース総時間数・本人の実際の出席時間数・受講コース名を記載してください。
6. 写真 4 枚（4 cm × 3 cm）	6 か月以内に撮影したもの。写真裏面には氏名を記載してください。
7. パスポートの写し	日本への出入国歴がある方は、出入国記録のすべてのコピーを提出してください。パスポートがない方は戸籍謄本・身分証明書（ID カード）・出生証明書のいずれかを提出してください。
8. 在学証明書・在学する学校の成績証明書	現在在学中の方
9. 在職証明書	職歴のある方は、職場での役職・在職期間・担当業務が分かる資料を提出してください。
10. 健康診断書	胸部 X 線を含む
11. 結核非発病証明書	フィリピン、ベトナム、インドネシア、ネパール、ミャンマー、中国の方は指定医療機関で結核スクリーニング検査を受けてください。
12. 家族同意書・誓約書	
13. 在日家族の在留カード	

経費支弁者提出書類

1. 経費支弁書	入学願書に含まれますが、審査時に詳細を確認します。
2. 申請者との関係を立証する書類	戸籍謄本または親族関係を証明するもの（在日支弁者は同一家族が記載された住民票）
3. 収入を証明する書類	所得証明書および納税証明書 1 年分
4. 職業を証明する書類	勤務先の在職証明書、営業許可書、会社登記簿謄本など
5. 銀行の残高証明書	原本を提出してください。
6. 通帳取引明細書または通帳の写し	1 年分
7. 資金形成についての説明書	通帳（取引明細）が 1 年以上あり説明を必要とする取引がない場合は不要

5. 出願書類に関する留意事項

- ・日本語以外で書かれた書類には、日本語翻訳を付けてください。（英語も含める）
- ・公的な証明書はすべて3か月以内に発行されたものに限りします。（海外の書類は発行日から6か月以内）
- ・出願された書類は、学校の審査結果（可否）に関わらず、いかなる場合にも返却できませんので、コピーをとって保管してください。ただし卒業証書など一度しか発行されない証書などは返却いたします。
- ・小学校入学時の年齢が一般と異なる場合、出身国の教育制度と照らし変則的になる場合、別紙説明書を作成してください。
- ・学校就学期間、在職期間の他に6か月以上ブランク期間がある場合は別紙説明書を作成してください。
- ・実際の卒業年月日と卒業証書の卒業年月日が異なる場合は、別紙説明書を作成してください。
- ・経費支弁者が送金をすることが困難な国の出身者は、送金方法を説明する書類を提出してください。
- ・名前・住所はカタカナにせず、アルファベット表記のままで正確に記載してください。
- ・一部の提出書類が期限に間に合わない場合は必ずご連絡ください。

・出願手続きおよび提出書類の内容について虚偽の申告、または重大な不備等が判明した場合には入学許可後であっても入学を取り消すことがあります。

6. 出願から入学までの流れ

①出願

出願期間：2026年8月3日～2026年9月30日

【提出書類】出願書類1・3・4の書類を提出してください。

- ・入学願書
- ・日本語能力の証明書
- ・最終学歴の成績証明書

(※大学卒業者は高等学校の成績証明書も提出してください)

※定員に達した場合、募集期間中であっても受付を締め切ることがあります。

②校内選考

提出書類および面接等により総合的に選考を行います。

結果はE-mailにて通知します。

合格者には入学許可書を発行します。

合格者は入学検定料の支払いおよび本校指定期日までに提出書類一式を提出してください。

③在留資格認定証明書（COE）の申請

【学校】

名古屋出入国在留管理局へ申請します。

申請日：2026年11月17日～2026年11月24日

④在留資格認定証明書（COE）の交付

【入管→学校】

交付日：2027年2月18日

⑤学費等の納入・査証（ビザ）申請

【申請者】

学費等を指定期日までに納入してください。

【学校】

学費納入確認後、在留資格認定証明書を送付します。

【申請者】

日本大使館または領事館にて査証（ビザ）申請を行ってください。

⑥来日・入学

【申請者】

授業開始の（1～2週間前）を目安に来日してください。

- ・オリエンテーション
- ・クラス分けテスト
- ・授業開始：2027年4月上旬

7. 選考方法

選考は、対面またはオンラインにて、以下の方法により総合的に行います。

① 書類選考

提出書類に基づき、学習能力、日本語能力、学習目的の適合性、経費支弁能力等を確認します。

② 面接審査

来日目的、学習意欲、将来計画等を確認するとともに、日本語によるコミュニケーション能力を総合的に評価します。

③ 日本語試験【必要に応じて実施】

提出書類および面接のみでは日本語能力の確認が十分でない場合、筆記試験または追加面接を実施することがあります。

※出願にあたっては、本校の教職員による教育内容、学費、在留資格に関する注意事項の説明を受け、理解していることを確認します。

8 納入金

①校内選考合格時

入学検定料:30,000 円

②学費等の内訳

【進学のための日本語1年課程】

年次	入学金	授業料	施設費	教材費	その他	年間合計
1年次	70,000	648,000	18,000	24,000	35,000	795,000

【進学のための日本語 2 年課程】

年次	入学金	授業料	施設費	教材費	その他	年間合計
1 年次	70,000	648,000	36,000	48,000	70,000	872,000
2 年次		648,000				648,000

【2 年間総額】**1,520,000 円**

※その他の費用には、以下の費用が含まれます。

- ・健康診断費（胸部レントゲン検査費、インフルエンザ予防接種費を含む）
- ・留学生保険料
- ・研修旅行費

【前年度参考額】

- ・健康診断費：15,000 円
- ・留学生保険料（2 年分）：48,000 円
- ・研修旅行費（2 年分）：7,000 円

※上記金額は参考額であり、年度により変更となる場合があります。

※余剰金が生じた場合は、卒業時に学生へ返金いたします。

③振込期限

1 年次の授業料およびその他費用は、在留資格認定証明書交付後に納入してください。

2 年次の授業料は、2 年次進級前 3 月末日までに納入してください。

④学費振込先

銀行名	静岡銀行
支店名	本店 営業部
口座番号	普通預金 1486473
口座名義	国際ことば学院
銀行住所	〒420-8760 静岡県静岡市葵区呉服町 1-10
Swift Code	SHIZJPJT

Flywire を通じてのお支払いも可能です。

下記の QR コードよりお支払いに進めます。



9 返金規程

1. 入学検定料・入学金

入学検定料および入学金は、理由の如何を問わず返金しません。

2. 授業料・施設費・教材費・その他納入金

(1) 返金の対象となる場合

以下の場合に限り、授業料・施設費・教材費・その他納入金を返金します。

① 授業開始日前日までに入学を辞退した場合（ビザ未申請または未取得）

授業開始日前日までに入学を辞退し、かつ入国査証（ビザ）を申請していない、または取得していない場合は返金します。

【提出書類】

- ・ 入学許可書
- ・ 在留資格認定証明書
- ・ 不來日理由書

② ビザ申請をしたが発給されなかった場合

在外公館（日本大使館または領事館）にて査証（ビザ）申請を行ったが、発給されなかった場合は返金します。

【提出書類】

- ・ 入学許可書

【確認事項】

- ・ ビザ不発給の事実が確認できること

③ ビザ取得後、授業開始前に入学を辞退した場合

査証（ビザ）取得後、授業開始前に入学を辞退した場合は返金します。

【条件】

- ・ 本校においてビザが未使用または失効していることが確認できること

④ ビザ取得後、授業開始後に入学を辞退した場合

査証（ビザ）取得後、授業開始後に入学を辞退した場合は返金します。

ただし、授業料1か月分を控除した額を返金します。

【条件】

- ・本校においてビザが未使用または失効していることが確認できること

⑤ 来日後、初回の在留カード更新前に中途退学した場合

来日後、初回の在留カード更新前に中途退学し、退学届を提出し、帰国が確認できた場合は返金します。

返金額は、未受講期間に相当する授業料とします。

(2) 返金しない場合

以下の場合、原則として返金しません。

- ・来日後、初回の在留カード更新後に中途退学した場合

(3) その他

- ・返金にかかる振込手数料は受取人の負担とします。
- ・返金時の為替レートは、日本国内の基準に基づき算出します。

10. 在留資格・資格外活動について

(1) 資格外活動許可

在留資格が「留学」の学生がアルバイト等の就労を行う場合は、事前に資格外活動許可を取得する必要があります。

(2) 労働時間

アルバイト等の労働時間は、すべての就労時間を合算し、以下の範囲内とします。

- ・学期中：原則として週 28 時間以内
- ・長期休暇期間：1 日 8 時間以内、週 40 時間以内

(3) 注意事項

- ・留学期間中は学費および生活費をアルバイト収入に依存せずに賄うことが必要です。
- ・経費支弁者は、学費および生活費を安定して継続的に支払う能力を有している必要があります。
- ・法令に違反した場合は、退学処分となる場合があるほか、在留資格の更新・変更等に影響することがあります。

11. 日本での生活

(1) 住民登録

日本に入国後は、14 日以内に住民登録（転入届）を行う必要があります。
また、住所を変更した場合は、速やかに届出を行ってください。

(2) 住居（家賃等）

住居にかかる費用には、家賃のほか、敷金・礼金、仲介手数料、光熱費等が含まれる場合があります。

【学生寮】

本校から徒歩約 3 分の場所にあります。入居期間は入学後 1 年間です。

・家賃

1 人利用：38,000 円

2 人利用：43,000 円（1 人あたり 21,500 円）

・初期費用

25,000 円

【民間アパート】

希望者には不動産会社を紹介します。

・家賃

30,000 円～50,000 円程度

・初期費用

敷金・礼金・仲介手数料等として、100,000 円～150,000 円程度

※上記は目安であり、物件や契約内容により異なります。

(3) 国民健康保険

日本に中長期在留する留学生は、原則として国民健康保険に加入する必要があります。

加入手続きは市区町村の窓口で行います。

保険料は収入等により異なりますが、目安として年額約 20,000 円～25,000 円（1 か月あたり約 2,000 円前後）です。

(4) 国民年金

日本に中長期在留する 20 歳以上の留学生は、原則として国民年金に加入する必要があります。

保険料の納付が困難な場合は、「学生納付特例制度」を申請することができます。

(5) 来日後の生活費の目安

来日後に必要な費用は、住居費、食費、光熱費、通信費等を含め、1 か月あたり

70,000 円～100,000 円程度です。
あらかじめ十分な資金を準備してください。

12. 学校生活・学生指導

本校では、学習成果の向上と安全な学生生活のため、生活指導および学習指導を行います。長期欠席や学習態度が著しく不良な場合、または学校の規則に反する行為が認められた場合は、指導・面談を行い、改善が見られない場合には退学等の措置を行うことがあります。

13. 通学について

本校の学生の多くは自転車で通学しています。
自転車事故等については、本校が加入する留学生保険の補償対象となります。
補償内容の概要については事前に案内し、詳細は入学後に案内します。
自転車利用時は交通ルールを遵守してください。

14. 災害・緊急時の対応

本校では、地震や台風等の災害に備え、毎年、防災訓練を実施しています。
また、避難方法や緊急時の連絡方法については、入学後に分かりやすく案内します。

15. 個人情報の取り扱い

本校は、出願時および在学中に取得した個人情報について、関係法令に基づき適切に管理し、入学手続、学籍管理、在留資格に関する手続等、教育運営に必要な範囲内で利用します。
また、法令に基づく場合を除き、本人の同意なく第三者に提供することはありません。

国際ことば学院日本語学校

〒422-8076

静岡市駿河区八幡三丁目2-28

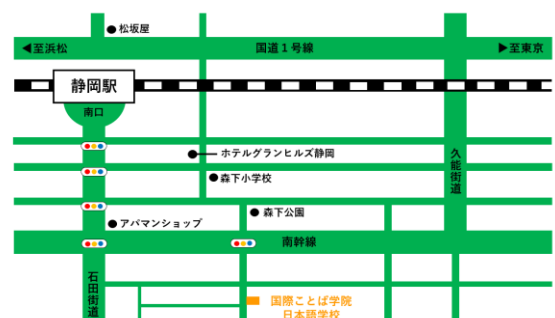
TEL: +81-54-284-8383

FAX: +81-54-284-8338

E-mail: gansho-kkg@kotoba.ac.jp

<https://jp.kotoba.ac.jp>

【事務所受付時間：月曜～金曜 9:00～17:00】



JR 静岡駅より徒歩 10 分

国際ことば学院日本語学校 募集要項 2027年度入学者用
進学のための日本語 2年課程
学習課程(カリキュラム)について

1. 学習到達目標

国際ことば学院日本語学校「進学のための日本語2年課程」では、次の学習到達目標を設定し、この目標を達成した場合、「課程修了」として認めます。

■到達目標1

「自分の将来を自ら決定し、継続的に学ぶ力を身につけることができる。」

- ・生涯にわたる自律的な学習を促進し実行に移すことができる。
- ・自身で言語熟達度の目標を設定しその到達度を確認、調整したりすることができる。
- ・多様な情報リソースから新たな知識や気づきを自律的に吸収し、楽しむことができる。

- (例) → 将来に必要な資格試験や就職試験のための準備が自分でできる
 → 日本語を使ってできることが増えて、生活を楽しむことができる

■到達目標2

「自分に関心のある幅広い分野について要点を汲んだり、熟達した日本語話者となめらかなやりとりができる。」

- ・大学の講義や仕事上の会議や議論の要点を正確に把握できる。
- ・専門分野の学術的な記事を理解し、主張のはっきりした文章の結論や議論の筋道を把握できる。
- ・幅広い話題に対し、理路整然とした論拠と事例を並べ、多角的な視点で詳細なプレゼンができる、質疑応答にも流ちょうかつ自然に対応できる。
- ・複数の情報源を論理的に一つに統合し、選択肢の利点、不利な点を説明する高度なレポートやエッセイが書ける。
- ・読み手を説得できる論理的な提案書などを作成できる。

- (例) → 大学や専門学校に進学して、専門教育を受けることができる
 → 就職先でプレゼンテーションができる

■到達目標3

「積極的に社会とのつながりをもつことができるよう、多様な方略を駆使しながら社会言語的な適切性を意識しその場にふさわしいコミュニケーションをとることができる。」

- ・あいづちやフィラーを使いこなし、会話の流れを能動的に維持、リードできる。
- ・多様な話者に対応し、場面に応じた適切な待遇表現を用いてコミュニケーションができる。

- (例) → 引っ越し先などで初めて会う人とでも自信を持って日本語でやりとりができる
 → フォーマルな場面でも、カジュアルな場面でも、会話に参加できる

2. 科目とスケジュール

この目標を達成するための授業科目とスケジュールは次の通りです。

≪1年目≫

レベル/時期	科目／時間数／言語活動(自律学習)	特別活動
初級1 [A1] 春学期 4月～6月 192時間	【総合日本語】 154時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 38時間 読むこと・書くこと	診断テスト 入学式 健康診断 カウンセリング 交通安全教室
初級2 [A2] 夏学期 7月～9月 192時間	【総合日本語】 154時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 38時間 読むこと・書くこと	運動会 防災訓練
中級1-1 [A2] 秋学期 10月～12月 192時間	【総合日本語】 120時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 28時間 読むこと・書くこと 【聴解】 10時間 聞くこと 【文法】 19時間 書くこと 【読解】 10時間 読むこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	研修旅行 カウンセリング
中級1-2 [B2] 冬学期 1月～3月 192時間	【総合日本語】 120時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 28時間 読むこと・書くこと 【文法】 19時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	学習成果発表会 校内実力テスト
1年間合計 768時間 (1時間=45分)		

《2年目》

レベル/時期	科目／時間数／言語活動(自律学習)	特別活動
中級2—1 [B1] 春学期 4月～6月 192時間	【総合日本語】 120時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【聴解】 10時間 聞くこと 【文法】 19時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	健康診断 カウンセリング
中級2—2 [B1] 夏学期 7月～9月 192時間	【総合日本語】 130時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【文法】 19時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	運動会 防災訓練
上級1 [B2] 秋学期 10月～12月 192時間	【総合日本語】 139時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【文法】 10時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 実力テスト	研修旅行 校内実力テスト (聞く、読む、話す、書く)
上級2 [B2] 冬学期 1月～3月 192時間	【聴解】 40時間 聞くこと 【読解】 40時間 読むこと 【対話】 40時間 やりとり 【プロジェクトワーク】 27時間 話すこと(発表) 【小論文】 32時間 書くこと 【キャリア形成】 9時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 4時間 自律学習・口頭発表	(校内実力テスト:やりとり) 学習成果発表会 卒業式
2年間合計 1536時間 (1時間=45分)		

3. 開講される科目とその目標

■総合日本語■

- ・自分の専門分野や関連のある話題において、複雑な内容であっても主要点を理解できる。
- ・また、日常的な話題から社会的、専門分野に関連する話題まで、複数の情報や立場を整理し、理由をもとに自分の意見を述べることができる。その際、他者を尊重しながら議論や発表、文章作成を行い、円滑なやりとりを行うことができる。

■漢字・語彙■

- ・日常的に目にするものから、進学先、就職先の専門的、社会的な分野で出会う可能性のある語彙や漢字表現の意味や用法を理解し、文脈に応じて適切に選択し、運用することができる。
- ・また、使用場面の違いを踏まえて語種の差、類意表現についても理解し、適切に語彙を選択したり、読むことと書くことの言語活動として運用できる。
- ・自身で整理し、意味やコロケーションの特徴を学習した語彙を用い、自分の関心のある分野の読み物を読み、その重要なポイントを把握することができる。

■聴 解■

- ・身近な話題から社会的な話題、自分の専門的な話題について、話の要点や話し手の意図を理解するための方略を用いて内容を理解できる。
- ・未習語や聞き取りにくい部分があっても文脈や話の流れから推測しながら理解できる。また、講義や会議などの内容を整理して意見交換や議論に参加することができる。
- ・Web の動画やテレビ放送番組などの映像付き音声メディアを理解し、その情報の要点を理解できる。

■文 法■

- ・入学までの母国等での学習で身につけた機能的表現を用いて、自分の意図する強調や心情といったモダリティの表現を適切に使い分けて表現することができる。
- ・社会的・専門的な話題に関する談話や文章において用いられる文法表現の意味や機能、類意表現の使い分けを理解し、文脈や意図に応じて適切に相手に誤解を与えないで伝えられるよう運用することができる。

■読 解■

- ・読解の方略や仲介のためのリソースを活用して専門的、社会的テキストについて、主張のはっきりした文章の結論や議論の筋道を把握することができ、要点や筆者の視点を理解できる。
- ・得た情報を他者と共有し、現代の社会的課題について多角的に考えることができる。
- ・また、エッセイなどの暗示的な意味が示されている文章について、仲間や教師の支援を受ければその存在に気づくことができ、様々な目的や文芸ジャンルの種類に応じ読み方を変えながら読み解き、筆者の主張や、情報の核心部を読みとることができ、それを楽しむことができる。

■対 話■

- ・社会生活における多様な日本語話者との対話において、場面に応じた話し言葉の特徴や言語的多様性を理解した上で、相手を尊重したり、相手に敬意を払うなどし、異なる立場の者との人間関係を円滑にするための社交的なやり取りを自律的に展開できる。
- ・熟達した日本語話者を相手に社会的関係を維持したまま言いたいことをそのまま正確に自然にコミュニケーションができる。

■プロジェクトワーク■

- ・自身の関心のあるテーマを自ら選択し、学外への取材活動を通じ社会とのつながりを意識した日本語を使った行動、活動を実践できる。
- ・他者との協働により活動に取り組み、成果として信頼を得られる程度に日本語を用いて情報を詳しく伝えることができる。

■小論文■

- ・日本国内の共生社会の課題や、世界規模の社会的な諸問題に対し、生徒自身に関心のあるテーマを見つけ、その話題に関し複数の対立する視点を比較・検討し、根拠に基づいた自らの考えを論理的かつ明瞭に日本語の文書にまとめることができる。

■キャリア形成■

- ・自身の生きるテーマとキャリア形成との関連性を明確にし、その過程で日本語で議論を行ったり、情報を収集できる。
 - ・特定の課題について重要なポイントを理解し、報告書や提案書を作成することができる。
- ビジネスや大学の研究室の訪問場面などでの日本語でのやりとりの敬語やマナーを理解し実践できる。
- ・意見や提案と、その根拠をはっきりと述べることができる。

■チュートリアル■

- ・他の授業科目で学習した内容をふまえ、自分の進路、進学先で新たな分野を学んだり、企業に就職して研修を受けたりするなど、卒業後に自分の専門分野での言語活動に対応するために自己の課題を正確に把握・分析し、学習方法や不足している項目を自ら補完したり、調整・改善できる。

4. 成績と修了・卒業について

各科目の成績は、学期ごとに行われる試験や学習活動の状況で決定します。

科目ごとの試験の合計点(評点)によって、5つの段階で評価し、合格か不合格で判定します。

判定	成績評価等	評点	内容
合格	A	90%以上～100%	目標を十分に達成し、特に優秀な成果を収めている
	B	80%以上90%未満	目標を十分に達成した
	C	70%以上80%未満	目標を達成した
	D	60%以上70%未満	目標を最低限度達成した
不合格	F	0%以上60%未満	目標に及ばなかった
認定	認定	—	科目の性格により評点では評価しづらい科目の目標の達成

1つでも不合格の科目があると、修了にはなりません。また、科目ごとの出席率が80%以下の場合や、試験を受けなかった場合には不合格となります。

課程の最後に「総合評価」として下の表のようにS～Fの5段階で成績証明書に表示します。

総合評価の評点は、学期ごとの科目(認定・不認定として評価する科目を除く)の評価A～FをそれぞれA=4、B=3、C=2、D=1、F=0の値に換算し、全課程、全科目の成績の値の合計を全科目数で除した平均を算出し、小数点第3位以下は四捨五入したものです。

総合評価の判定	評点
S・秀	3.50以上
A・優	3.00以上3.50未満
B・良	2.00以上3.00未満
C・可	1.00以上2.00未満
F・不可	1.00未満

「卒業」の条件

- 1)すべての科目が合格または認定で、総合評価がS・秀、A・優、B・良、C・可の判定を受けていること
- 2)課程の最終日まで在籍し、かつ課程全体の出席率が80%以上であること
- 3)授業料を課程の最終日までに完納していること
- 4)在籍中に処罰を受けていないこと

5. その他 注意点

入学には、条件があります。募集要項をよく読み、わからない場合は学校まで直接たずねて、確認をしてください。

国際ことば学院日本語学校 募集要項 2027年度入学者用
進学のための日本語 1年課程
学習課程(カリキュラム)について

1. 学習到達目標

国際ことば学院日本語学校「進学のための日本語1年課程」では、次の学習到達目標を設定し、この目標を達成した場合、「課程修了」として認めます。

■到達目標1

「自分の将来を自ら決定し、継続的に学ぶ力を身につけることができる。」

- ・生涯にわたる自律的な学習を促進し実行に移すことができる。
- ・自身で言語熟達度の目標を設定しその到達度を確認、調整したりすることができる。
- ・多様な情報リソースから新たな知識や気づきを自律的に吸収し、楽しむことができる。

- (例) → 将来に必要な資格試験や就職試験のための準備が自分でできる
→ 日本語を使ってできることが増えて、生活を楽しむことができる

■到達目標2

「自分に関心のある幅広い分野について要点を汲んだり、熟達した日本語話者となめらかなやりとりができる。」

- ・大学の講義や仕事上の会議や議論の要点を正確に把握できる。
- ・専門分野の学術的な記事を理解し、主張のはっきりした文章の結論や議論の筋道を把握できる。
- ・幅広い話題に対し、理路整然とした論拠と事例を並べ、多角的な視点で詳細なプレゼンができ、質疑応答にも流ちょうかつ自然に対応できる。
- ・複数の情報源を論理的に一つに統合し、選択肢の利点、不利な点を説明する高度なレポートやエッセイが書ける。
- ・読み手を説得できる論理的な提案書などを作成できる。

- (例) → 大学や専門学校に進学して、専門教育を受けることができる
→ 就職先でプレゼンテーションができる

■到達目標3

「積極的に社会とのつながりをもつことができるよう、多様な方略を駆使しながら社会言語的な適切性を意識しその場にふさわしいコミュニケーションをとることができる。」

- ・あいづちやフィラーを使いこなし、会話の流れを能動的に維持、リードできる。
- ・多様な話者に対応し、場面に応じた適切な待遇表現を用いてコミュニケーションができる。

- (例) → 引っ越し先などで初めて会う人とでも自信を持って日本語でやりとりができる
→ フォーマルな場面でも、カジュアルな場面でも、会話に参加できる
→ 住民の一人として地域コミュニティの「輪」に参加できる

2. 科目とスケジュール

この目標を達成するための授業科目とスケジュールは次の通りです。

レベル/時期	科目／時間数／言語活動(自律学習)	特別活動
中級2―1 [B1] 春学期 4月～6月 192時間	【総合日本語】 120時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【聴解】 10時間 聞くこと 【文法】 19時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	診断テスト 入学式 健康診断 交通安全教室 カウンセリング 実力テスト
中級2―2 [B1] 夏学期 7月～9月 192時間	【総合日本語】 130時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【文法】 19時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	運動会 防災訓練
上級1 [B2] 秋学期 10月～12月 192時間	【総合日本語】 139時間 聞くこと・読むこと・やりとり・話すこと(発表)・書くこと 【漢字・語彙】 18時間 読むこと・書くこと 【文法】 10時間 書くこと 【読解】 15時間 読むこと 【キャリア形成】 5時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 5時間 自律学習	研修旅行 校内実力テスト
上級2 [B2] 冬学期 1月～3月 192時間	【聴解】 40時間 聞くこと・地域住民との意見交換会 【読解】 40時間 読むこと 【対話】 40時間 やりとり 【プロジェクトワーク】 27時間 話すこと(発表) 【小論文】 32時間 書くこと 【キャリア形成】 9時間 読むこと・やりとり・書くこと 【チュートリアル】 4時間 自律学習・口頭発表	学習成果発表会 卒業式
合計 768時間 (1時間=45分)		

3. 開講される科目とその目標

■総合日本語■

- ・自分の専門分野や関連のある話題において、複雑な内容であっても主要点を理解できる。
- ・また、日常的な話題から社会的、専門分野に関連する話題まで、複数の情報や立場を整理し、理由をもとに自分の意見を述べることができる。その際、他者を尊重しながら議論や発表、文章作成を行い、円滑なやりとりを行うことができる。

■漢字・語彙■

- ・日常的に目にするものから、進学先、就職先の専門的、社会的な分野で出会う可能性のある語彙や漢字表現の意味や用法を理解し、文脈に応じて適切に選択し、運用することができる。
- ・また、使用場面の違いを踏まえて語種の差、類意表現についても理解し、適切に語彙を選択したり、読むことと書くことの言語活動として運用できる。
- ・自身で整理し、意味やコロケーションの特徴を学習した語彙を用い、自分の関心のある分野の読み物を読み、その重要なポイントを把握することができる。

■聴 解■

- ・身近な話題から社会的な話題、自分の専門的な話題について、話の要点や話し手の意図を理解するための方略を用いて内容を理解できる。
- ・未習語や聞き取りにくい部分があっても文脈や話の流れから推測しながら理解できる。また、講義や会議などの内容を整理して意見交換や議論に参加することができる。
- ・Web の動画やテレビ放送番組などの映像付き音声メディアを理解し、その情報の要点を理解できる。

■文 法■

- ・入学までの母国等での学習で身につけた機能的表現を用いて、自分の意図する強調や心情といったモダリティの表現を適切に使い分けて表現することができる。
- ・社会的・専門的な話題に関する談話や文章において用いられる文法表現の意味や機能、類意表現の使い分けを理解し、文脈や意図に応じて適切に相手に誤解を与えないで伝えられるよう運用することができる。

■読 解■

- ・読解の方略や仲介のためのリソースを活用して専門的、社会的テキストについて、主張のはっきりした文章の結論や議論の筋道を把握することができ、要点や筆者の視点を理解できる。
- ・得た情報を他者と共有し、現代の社会的課題について多角的に考えることができる。
- ・また、エッセイなどの暗示的な意味が示されている文章について、仲間や教師の支援を受ければその存在に気づくことができ、様々な目的や文芸ジャンルの種類に応じ読み方を変えながら読み解き、筆者の主張や、情報の核心部を読みとることができ、それを楽しむことができ

る。

■対 話■

- ・社会生活における多様な日本語話者との対話において、場面に応じた話し言葉の特徴や言語的多様性を理解した上で、相手を尊重したり、相手に敬意を払うなどし、異なる立場の者との人間関係を円滑にするための社交的なやり取りを自律的に展開できる。
- ・熟達した日本語話者を相手に社会的関係を維持したまま言いたいことをそのまま正確に自然にコミュニケーションができる。

■プロジェクトワーク■

- ・自身の関心のあるテーマを自ら選択し、学外への取材活動を通じ社会とのつながりを意識した日本語を使った行動、活動を実践できる。
- ・他者との協働により活動に取り組み、成果として信頼を得られる程度に日本語を用いて情報を詳しく伝えることができる。

■小論文■

- ・日本国内の共生社会の課題や、世界規模の社会的な諸問題に対し、生徒自身に関心のあるテーマを見つけ、その話題に関し複数の対立する視点を比較・検討し、根拠に基づいた自らの考えを論理的かつ明瞭に日本語の文書にまとめることができる。

■キャリア形成■

- ・自身の生きるテーマとキャリア形成との関連性を明確にし、その過程で日本語で議論を行ったり、情報を収集できる。
 - ・特定の課題について重要なポイントを理解し、報告書や提案書を作成することができる。
- ビジネスや大学の研究室の訪問場面などでの日本語でのやりとりの敬語やマナーを理解し実践できる。
- ・意見や提案と、その根拠をはっきりと述べることができる。

■チュートリアル■

- ・他の授業科目で学習した内容をふまえ、自分の進路、進学先で新たな分野を学んだり、企業に就職して研修を受けたりするなど、卒業後に自分の専門分野での言語活動に対応するために自己の課題をバックワードで設定し、正確に把握・分析し、学習方法や不足している項目を自ら補完したり調整、改善できる。
- ・また、自身の進路の専門分野に係る社会問題について調べて発表する活動や、「実力テスト」(校内で行う熟達度試験)を受験したうえで自身の学習の強みや弱み、学習課題を整理する方法を身につけ、卒業後も継続的に言語活動を発展させることができる。
- ・1年間学習を共にする仲間や教員の支援を受けながら共に学ぶことができる。

4. 成績と修了・卒業について

各科目の成績は、学期ごとに行われる試験や学習活動の状況で決定します。

科目ごとの試験の合計点(評点)によって、5つの段階で評価し、合格か不合格で判定します。

判定	成績評価等	評点	内容
合格	A	90%以上～100%	目標を十分に達成し、特に優秀な成果を収めている
	B	80%以上90%未満	目標を十分に達成した
	C	70%以上80%未満	目標を達成した
	D	60%以上70%未満	目標を最低限度達成した
不合格	F	0%以上60%未満	目標に及ばなかった
認定	認定	—	科目の性格により評点では評価しづらい科目の目標の達成

1つでも不合格の科目があると、修了にはなりません。また、科目ごとの出席率が80%以下の場合や、試験を受けなかった場合には、不合格となります。

課程の最後に「総合評価」として下の表のようにS～Fの5段階で成績証明書に表示します。

総合評価の評点は、学期ごとの科目(認定・不認定として評価する科目を除く)の評価A～FをそれぞれA=4、B=3、C=2、D=1、F=0の値に換算し、全課程、全科目の成績の値の合計を全科目数で除した平均を算出し、小数点第3位以下は四捨五入したものです。

総合評価の判定	評点
S・秀	3.50以上
A・優	3.00以上3.50未満
B・良	2.00以上3.00未満
C・可	1.00以上2.00未満
F・不可	1.00未満

「卒業」の条件

- 1)すべての科目の科目が合格または認定で、総合評価がS・秀、A・優、B・良、C・可、「認定」の判定を受けていること
- 2)課程の最終日まで在籍し、かつ課程全体の出席率が80%以上であること
- 3)授業料を課程の最終日までに完納していること
- 4)在籍中に処罰を受けていないこと

5. その他 注意点

入学には、条件があります。募集要項をよく読み、わからない場合は学校まで直接たずねて、確認をしてください。